2025 年度　環境経営レポート

2026 年 3 月 9 日

株式会社　ＯＡ研究所

－ 目　　次 －

1．組織の概要
2．対象範囲
3．環境経営方針
4．環境経営目標
5．環境経営計画
6．環境経営計画に基づき実施した取組内容
7．環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果と評価、次年度の環境経営目標及び環境経営計画
8．環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無
9．代表者による全体の評価と見直し・指示

1．組織の概要

（1）　事業所名及び代表者氏名

・株式会社ＯＡ研究所

・代表取締役社長　松﨑　希誉文

（2）　所在地

・本　　社：神奈川県鎌倉市台二丁目 15 番 41 号

・藤沢工場：神奈川県藤沢市遠藤 2021 番地 10

（3）　環境管理責任者及び連絡先

・環境管理責任者：専務取締役　品質保証センター　センター長　小原　義徳

・連絡先：神奈川県鎌倉市台二丁目 15 番 41 号

TEL：0467-44-5566　FAX：0467-48-0256

（4）　事業の概要

・情報通信機器(ハードウェア、ソフトウェア)の開発・製造と情報通信機器及び実装基板の受託開発・受託製造並びにサービス業務（検査・修理等）

2．対象範囲

(1)認証・登録範囲　　株式会社ＯＡ研究所本社及び藤沢工場

(2)レポートの対象期間　2025 年 1 月 1 日から 2025 年 12 月 31 日

(3)レポート発行日　　2026 年 3 月 9 日

3．環境経営方針

株式会社　ＯＡ研究所　環境経営方針

当社は、企業理念に則り「ひのき(品質・納期・機密保持)精神」をモットーに、美しい自然に恵まれたこの地球環境と資源を次世代に引き継ぐため、環境問題を人類共通の重要事項との認識のもと「環境との調和」を経営の重要課題の一つととらえ、全ての企業活動において地球環境の保全を優先して、継続的な活動を推進致します。

● 行動指針

(1)当社で設計・製造される製品又はサービス業務の企業活動に必要な、資源及び環境への影響に配慮するため、環境マネジメントシステムを運用することにより、資源・エネルギーの有効活用、汚染防止、廃棄物の削減・適正処理及びリサイクルを継続的に推進する。

(2)環境に関連する法規制及び周辺地域の環境条例、その他当社が同意する協定等の要求事項を遵守し、それらに沿った環境の保全を行う。

(3)次の項目に関連し、環境への負荷の自己チェック（以下環境影響評価という）結果に配慮した環境目標を年度ごとに設定し、その活動状況を環境マニュアルに沿って定期的に確認・評価及び改善を図る。

①地球温暖化、オゾン層破壊を含めた汚染の予防
②天然資源の保護(資源消費量の削減)の推進
③地球環境負荷(資源リサイクル、廃棄物の排出量)軽減の推進
④製品又はサービス業務における環境配慮（化学物質の管理、製品環境アセスメント）の推進

(4)環境マネジメントシステムへの取り組みを全従業員に周知するとともに、環境経営レポートを公表する。

株式会社　ＯＡ研究所
代表取締役社長　松﨑　希誉文

4. 環境経営目標

環境経営目標項目	第Ⅴ期全社中期環境目標(2024 年～2028 年)			2025 年度
	基準年度	達成年度	目標値	目標値
二酸化炭素排出量 絶対値削減	2003 年 385.9 トン	2028 年 154.4 トン	 60%削減	157.5 トン 59%削減
廃棄物総排出量の削減	2003 年 24.2 トン	2028 年 5.5 トン	 57%削減	3.8 トン 85%削減
廃棄物 リサイクル率の向上	2003 年 41.4%	2028 年 75.0%	33.6 ポイント 向上	63.5% 22 ポイント向上
総排水量 (水使用量)の削減	2003 年 2,190 ㎥	2028 年 618.0 ㎥	 72%削減	917 ㎥ 58%削減
コピー用紙使用量の削減	2003 年 2,220 冊	2028 年 281 冊	 87%削減	130 冊 94%削減
化学物質使用量の削減 IPA 使用量の削減	2010 年 99.6 ㎏	2028 年 15.2 ㎏	 85%削減	7.0 ㎏ 93%削減
グリーン調達 ROHS 対応率	2010 年 95.8%	2028 年 99.9%	4.1 ポイント 向上	99.8% 4 ポイント向上
自らが生産・販売・提供する製品及びサービス	各部門の本来業務に係わる項目を目標とて掲げ管理する。			

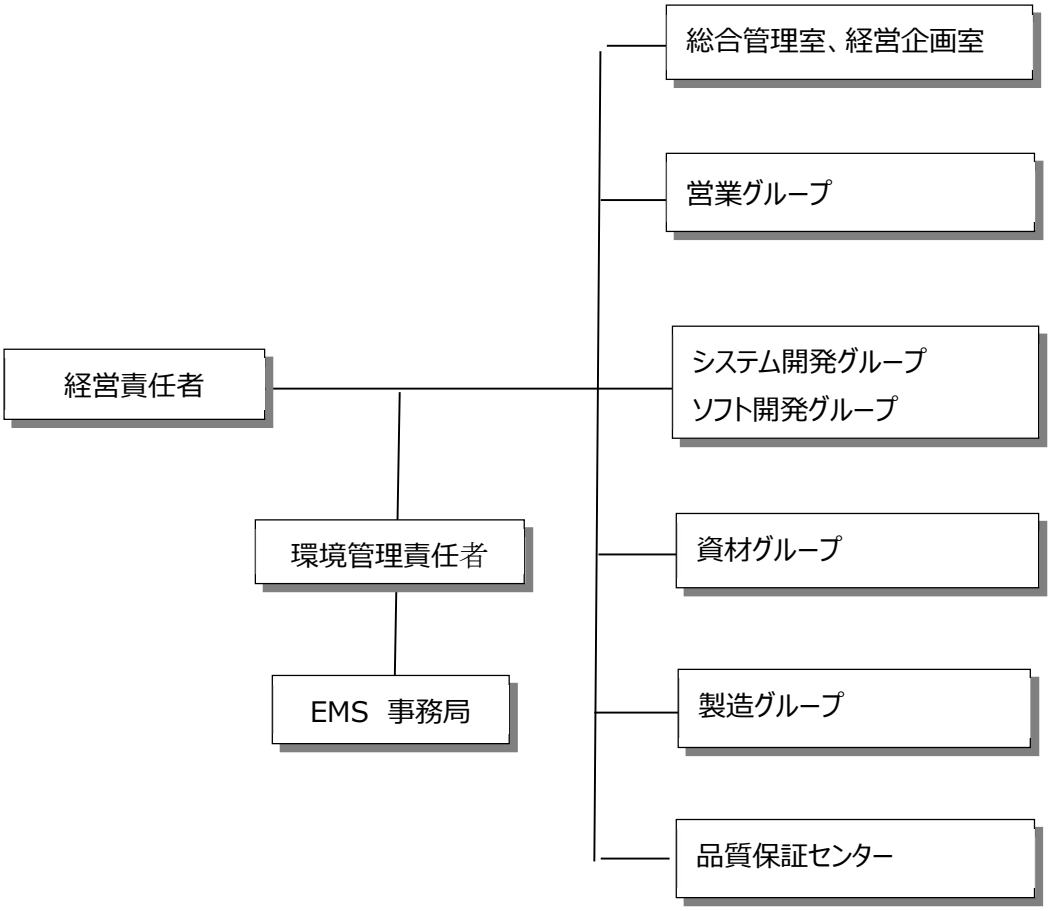
電力の二酸化炭素排出係数は、2010 年 0.375(kg-CO2/kWh)として、中長期での推移を比較できるものとする。

5. 環境経営計画

No	環境経営目標項目	2025 年度の目標値	主な実施事項
1	二酸化炭素排出量の削減 (2028 年度までに 2003 年度実績値の 60%削減)	電気使用量は 2003 年度 90.9 万 kWh を 41.7 万 kWh にする。 (54%削減)	1.生産設備の効率的運転 2.改善・工夫による作業の効率化 3.省エネ照明へ一部更新 4.省エネ PC へ更新
2	廃棄物総排出量の削減 (2028 年度までに 2003 年度実績値の 57%削減)	廃棄物総排出量は 2003 年度 24.2 トンを 3.8 トンにする。 (85%削減)	1.用紙類の使用量を抑制 2.梱包、包装材の再使用を拡大 3.オフィス使用品のリユースを促進(事務用品、生活用品)
3	分別回収の徹底によるリサイクル率の向上 (2028 年度までに 2003 年度実績値の 33.6 ポイント向上)	リサイクル率は 2003 年度 41.4%から 63.5%へ向上 (22 ポイント向上)	1.分別回収区分の徹底によりリサイクル量を増加 2.包装/梱包材の削減、再使用により廃棄物の排出量を抑制
4	総排水量の削減 (2028年度までに2003年度実績値の72%削減)	総排水量は 2003 年度 2,190 ㎥を 917 ㎥にする。 (58%削減)	1.配管及び設備からの漏水点検 2.蛇口からの適量使用 3.蛇口のこまめな開閉
5	コピー用紙使用量の削減 (2028年度までに2003年度実績値の87%削減)	コピー用紙使用量は 2003 年度 2,220 冊を 130 冊にする。 (94%削減)	1.紙書類の簡素化を推進 2.裏紙使用、縮小・両面印刷 3.会議資料、配付資料の電子化 4.紙書類の納品物を電子化
6	化学物質使用量の削減 IPA 使用量の削減	IPA の使用量 7.0 kg以下	1.無洗浄はんだの使用推進
7	グリーン調達 RoHS 対応率	RoHS 対応部品の調達 RoHS 対応率 99.8%	1.鉛フリー化部品への変更提案
8	自らが生産・販売・提供する製品及びサービス	各部門の本来業務に係る項目	1.不良率監視と是正対策の実施 2.環境アセスメントチェックによる環境にやさしい設計への取組

6．環境経営計画に基づき実施した取組内容

6．1 実施組織



6．2 取組内容と実績

当社の事業内容は、情報通信機器(ハードウェア、ソフトウェア)の開発・製造及び情報通信機器実装基板の受託開発、受託製造並びに受託修理で環境負荷として、主に二酸化炭素排出量、総廃棄物排出量及び総排水量が該当する。尚、総物質投入量を記入しなかった理由は、当社の製品は、種類・品目数が多岐にわたるため除外項目としました。

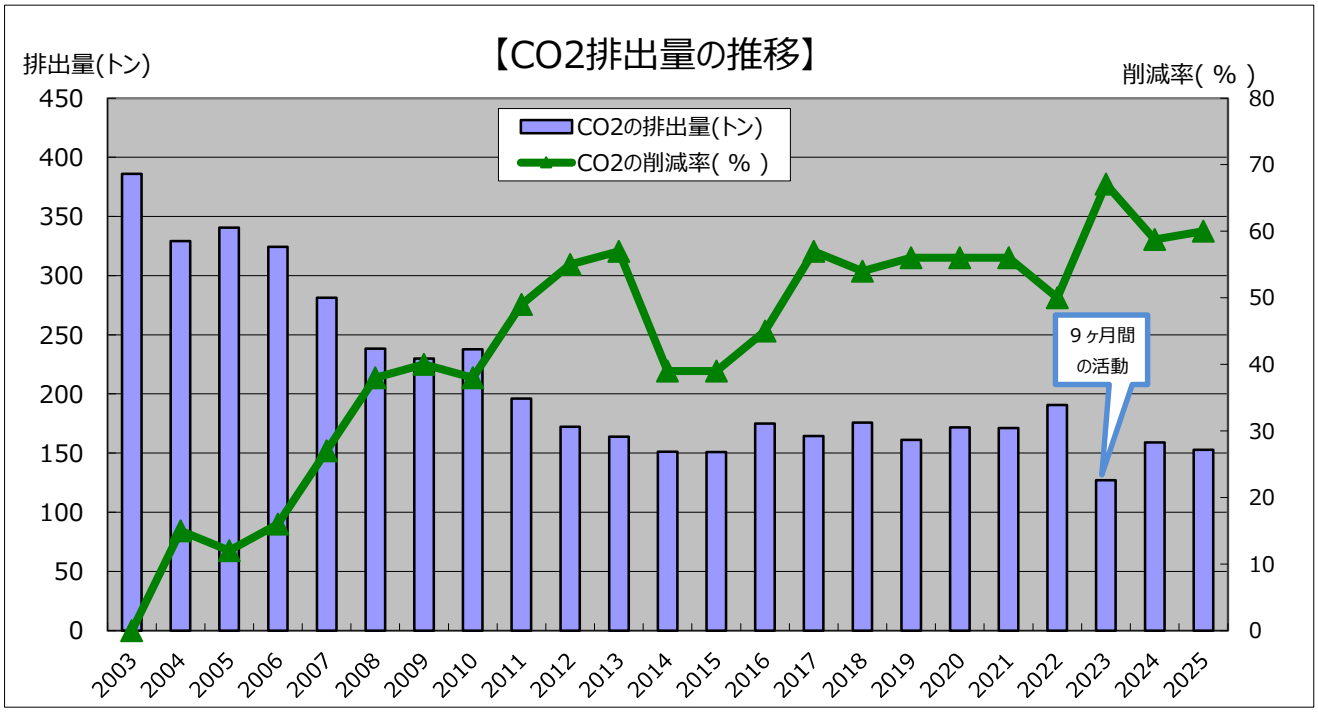
環境経営目標項目	第Ⅴ期全社中期環境目標 (2024 年～2028 年)		2025 年度	2025 年度
	基準年度の実績値	達成年度の目標値 (基準年度比)	全社目標 (基準年度比)	全社実績 (基準年度比)
二酸化炭素排出量絶対値を削減	2003 年 385.9 トン	2028 年 154.4 トン (60%削減)	157.5 トン (59%削減)	152.9 トン (60%削減)
電気使用量の削減	2003 年 90.9 万 kwh	2028 年 38.86 万 kwh (57%削減)	41.7 万 kwh (54%削減)	40.3 万 kwh (56%削減)
廃棄物総排出量の削減	2003 年 24.2 トン	2028 年 5.5 トン (77%削減)	3.8 トン (85%削減)	4.5 トン (82%削減)
廃棄物リサイクル率の向上	2003 年 41.4%	2028 年 75.0% (33.6 ポイント向上)	63.5% (22.1 ポイント向上)	62.2% (20.8 ポイント向上)
総排水量(水使用量)の削減	2003 年 2,190 ㎥	2028 年 618.0 ㎥ (72%削減)	917 ㎥ (58%削減)	936 ㎥ (57%削減)
コピー用紙使用量の削減	2003 年 2,220 冊	2028 年 281 冊 (87%削減)	130 冊 (94%削減)	196 冊 (91%削減)
化学物質使用量の削減 IPA 使用量の削減	2010 年 99.6 kg	2028 年 15.2 kg (85%削減)	7.0 kg (87%削減)	8.0 kg (92%削減)
グリーン調達 ROHS 対応率	2010 年 95.8 %	2028 年 99.9% (4.1 ポイント向上)	99.8% (4 ポイント向上)	99.8% (4 ポイント向上)
自らが生産・販売・提供する製品及びサービス	各部門の本来業務に係る項目		不良率監視と是正対策を確実に行い手戻りによる無駄の削減や環境アセスメントチェックによる環境にやさしい設計への取組を実施しています。	

7. 環境経営目標及び環境経営計画の実績・取組結果と評価、次年度の環境経営目標及び環境経営計画

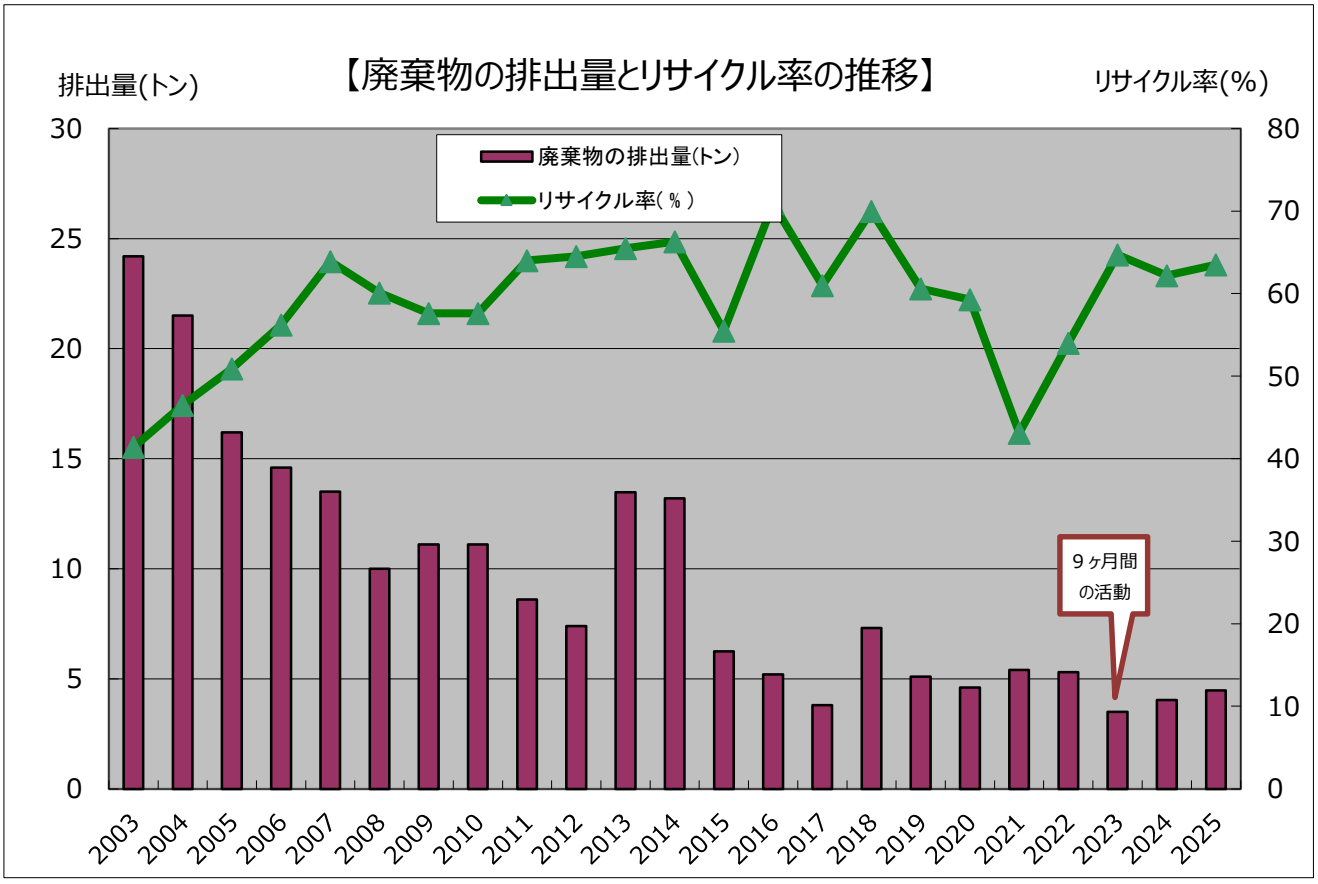
7. 1 実績・取組結果と評価

改善状況のうち主な環境経営目標項目である二酸化炭素(CO2)の排出量及び廃棄物の排出量、リサイクル率の実績推移を付図 1、付図 2 に示します。

【付図 1】



【付図 2】



当社の二酸化炭素排出量の大部分を占める電気使用量は、生産設備の効率的運転と省エネ PC 等への更新により 40.3 万 kWh に抑えられ、計画（41.7 万 kWh）を達成しました。これに伴い、二酸化炭素排出量は計画：157.5 トンに対し、実績：152.9 トン（計画比 97.1%）となり、目標を達成いたしました。
一方で、ガソリン使用量は計画 557L に対し実績 855 リットル（計画比 153.6%）と超過。総排水量は計画 917 ㎥に対し実績 936 ㎥（計画比 102.0%）、廃棄物総排出量も計画 3.8 トンに対し実績 4.5 トン（計画比 116.6%）、コピー用紙使用量は計画 130 冊に対し実績 196 冊（計画比 150.8%）となり、これらの項目については業務量の増加に伴い目標を超過する結果となりました。廃棄物リサイクル率については 62.2%となり、計画の 63.5%には一歩届かなかったものの、一定の水準を維持しています。

7．2　2026 年度の環境経営目標及び環境経営計画

生産設備の稼働率向上に伴うエネルギー管理、空調・生産設備のさらなる効率的運転を継続するとともに、今期計画を超過したガソリン、排水、廃棄物、コピー用紙について、社内全体の連携による徹底した無駄の削減とリサイクル率の向上、業務の電子化（Web 会議やペーパーレス化）を再度強化します。

No	環境経営目標	2026 年度の目標値	主な実施項目
1	二酸化炭素排出量の削減 (2028 年度までに 2003 年度実績値の 60%削減)	電気使用量は 2003 年度 90.9 万 kWh を 39.9 万 kWh にする。 (56%削減)	1.生産設備の効率的運転 2.改善・工夫による作業の効率化 3.省エネ PC へ更新 4.生産設備の更新
2	廃棄物総排出量の削減 (2028 年度までに 2003 年度実績値の 77%削減)	廃棄物総排出量は 2003 年度 24.2 トンを 4.2 トンにする。 (83%削減)	1.用紙類の使用量を抑制 2.梱包、包装材の再使用を拡大 3.オフィス使用品のリユースを促進(事務用品、生活用品)
3	分別回収の徹底によるリサイクル率の向上 (2028 年度までに 2003 年度実績値の 33.6 ポイント向上)	リサイクル率は 2003 年度 41.4%から 59.1%へ向上 (17.7 ポイント向上)	1.分別回収区分の徹底によりリサイクル量を増加 2.包装/梱包材の削減、再使用により廃棄物の排出量を抑制
4	総排水量の削減 (2028年度までに2003年度実績値の72%削減)	総排水量は 2003 年度 2,190 ㎥を 917 ㎥にする。 (58%削減)	1.配管及び設備からの漏水点検 2.蛇口からの適量使用 3.蛇口のこまめな開閉
5	コピー用紙使用量の削減 (2028年度までに2003年度実績値の87%削減)	コピー用紙使用量は 2003 年度 2,220 冊を 186 冊にする。 (92%削減)	1.紙書類の簡素化を推進 2.裏紙使用、縮小・両面印刷 3.会議資料、配付資料の電子化 4.紙書類の納品物を電子化
6	化学物質使用量の削減 IPA 使用量の削減	IPA の使用量 7.0 kg以下	1.無洗浄はんだの使用推進
7	グリーン調達 RoHS 対応率	RoHS 対応部品の調達 RoHS 対応率 99.8%	1.鉛フリー化部品への変更提案
8	自らが生産・販売・提供する製品及びサービス	各部門の本来業務に係る項目	1.不良率監視と是正対策の実施 2.環境アセスメントチェックによる環境にやさしい設計への取組

8．環境関連法規などの遵守状況の確認及び評価の結果、並びに違反、訴訟などの有無

(1)適用となる主な環境関連法規

主な適用法規	該当する活動
廃棄物の処理及び清掃に関する法律	廃棄物の排出時の適正処理
消防法	危険物の指定数量の管理

(2)環境関連法規等の遵守状況を確認及び評価し、問題はありませんでした。

(3)違反、訴訟等

環境関連法規への違反はありません。

尚、関係機関等から指摘、クレームはなく、また訴訟等も同様に過去 1 件もありません。

9．代表者による全体の評価と見直し・指示

9．1 全体の評価

日常業務の中で地球環境の保全活動を優先して進めた結果、主要な経営課題である電気使用量の大幅な抑制と、それに伴う二酸化炭素排出量の削減目標（基準年度比 60%削減）を達成することができました。 しかしながら、ガソリン使用量や総排水量、廃棄物およびコピー用紙の使用量に関しては今年度計画を上回る結果となっており、業務効率化の過程における資源管理に課題が残りました。

9．1 見直し・指示

引き続き環境活動計画による、各データの監視を行い、社内全体で連携して資源の単純廃棄削減とリサイクル率向上、ペーパーレスの徹底を推進すること。

開発部門：小型化や省電力部品の選定、環境アセスメントの実施、新技術の情報収集を継続すること。

資材部門：仕入先との密な情報連携による最新の RoHS 部品情報のタイムリーな社内展開を継続すること。

製造部門：設備稼働の最適化やラインレイアウトの見直しによる、さらなる生産効率向上とエネルギー・廃棄物削減を追求すること。

事務局：今期目標を超過した項目（ガソリン・排水・廃棄物・コピー用紙）の原因分析と改善を図ること。

以上